

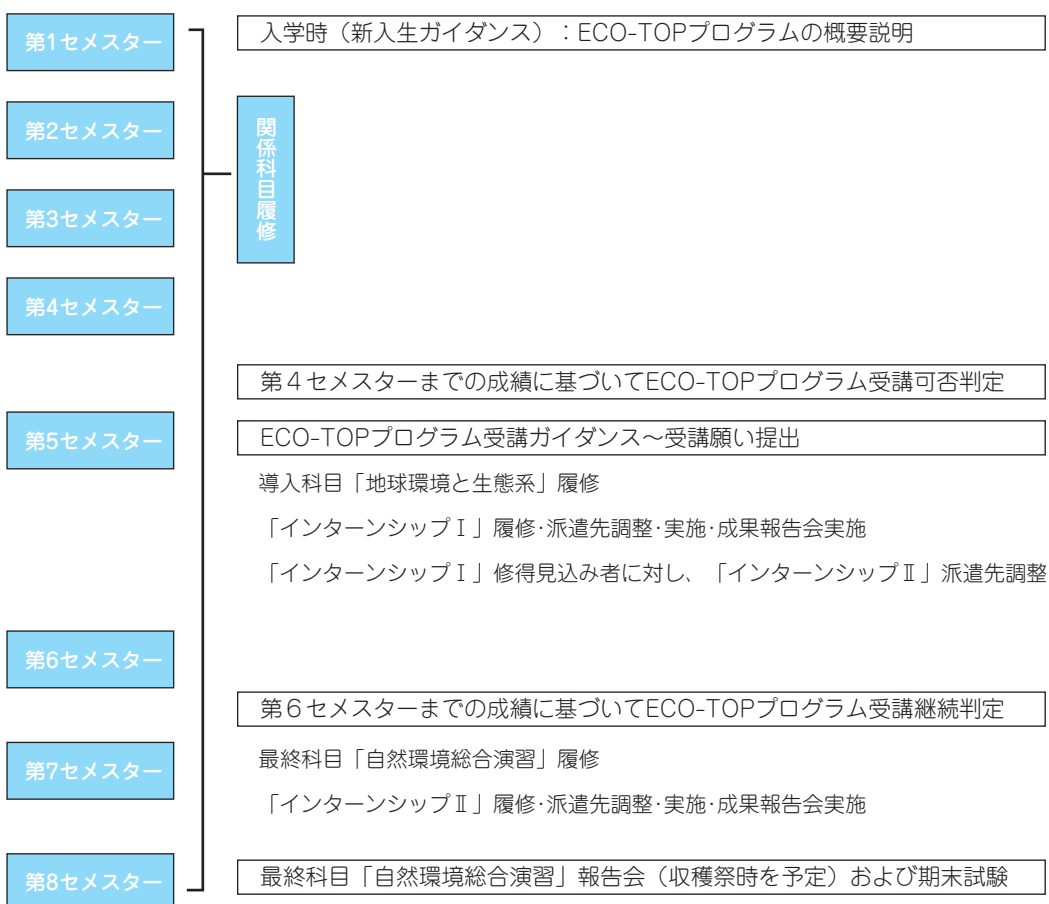
## ECO-TOPプログラム（自然環境保全を担う「人材育成・認証制度」）

生物環境システム学科では、自然（生態系）・農業・社会の3つを柱として、自然環境保全をはじめとするさまざまな環境問題を多方面から体系的に理解し、問題解決に取り組むことができる人材の育成を目指しています。また、環境問題には国境がない一方、地域特有の問題（気候や自然風土・社会などの地域性）への配慮も大切となることから、本学での科目履修（講義、実習）だけでなく、海外留学プログラム（カナダ、2年次に約4カ月間）や学外実習地（箱根・北海道・鹿児島）での野外実習プログラムを重視しています。これらの知識・技能・経験を活かして、さまざまな社会現場での自然環境保全活動に携わったり、指導的役割を担える人材として、東京都によるECO-TOPプログラム資格を認定します。

### ECO-TOPプログラムにおいて目標とする人材像

- (1) 地域コミュニティにおける自然環境保全活動等の参加者、指導者
- (2) 自治体・企業・NPOなどにおける自然環境保全政策・計画、環境経営部門などの従事者
- (3) 農林水産・畜産業従事者、生産物加工業・流通業・造園業・建設業などの企業従事者
- (4) 自然公園等の管理者・レンジャー、自然観察指導員、博物館学芸員、大学や研究機関の研究者
- (5) 教員（中・高理科、高校農業）、その他地域等で自然環境・生物保全の大切さを啓蒙する人

### ECO-TOPプログラム受講の流れ（概要）



人間	生物資源	機械情報	国経	教育	PA	LA
比較文化	生物環境	ソフトウェア	観光	乳幼児	MA	
	生命化学	マネジメント			VA	

科目群		授業科目	単位	必選	備考
総合科目 合計6単位	カリキュラムの導入科目	地球環境と生態系	2	必	
	安全管理・救急救命に関する科目	野外安全教育	2	必	実習を含む
	カリキュラムの最終科目	自然環境総合演習	2	必	演習
自然科学科目  必修を含み 6単位以上	生態学・分類学に関する科目	生態学概論	2	必	
		環境生物学	2		
		生物環境システム学概論	2		
		動物行動生態学	2		
		植物分類学	2		
		植物生理生態・分類学	3		
	自然環境の保全と適正利用に関する科目	生態系保全学	2		
		保全生物学	2		
		環境科学	2		
	農学・農業に関する科目	生物環境利用学A	2	必	
		生物環境利用学B	2		
		持続的農業システム学	2		
動物環境管理学		2			
地理学・地球に関する科目	植物繁殖学	3			
	生態地理学	2			
	地球科学	2			
生態学・農学・農業に関する実習科目	生物環境物理学	2			
	生物環境実習Ⅰ	1	必	実習	
	生物環境実習Ⅱ	1	必	実習	
社会科学科目  必修選択を含み 6単位以上	環境と社会、法令、経済学に関する科目	生物環境実習Ⅲ	1	必	実習
		環境と法令	2	必修選択	
		環境経済学	2	(1科目以上)	
		環境マネジメント論	2		
		国際開発論	2		
		科学技術史	2		
	地域環境とその利用に関する科目	環境社会科学A	2		
		環境社会科学B	2		
		農業マーケティング論	2		
		地域環境論	2		
		地域環境研究	2		
		緑地環境学	2		
人文科学科目  必修を含み 6単位以上	環境・生命と倫理、文化に関する科目	環境倫理学	2	必	
		生命倫理学	2		
		比較文化論	2		
		エコ・ツーリズム論	2		
		エコロジーデザイン論	2		
	環境教育に関する科目	環境教育	2	必	
インターンシップ		インターンシップⅠ	2	必	
		インターンシップⅡ	2	必	インターンシップⅠ修得者のみ履修可

資格取得に必要な単位数	34単位以上 必修科目 21単位：17単位（導入・安全・最終管理、実習・演習科目）+4単位（インターンシップ） 必修選択科目 2単位以上 選択科目 11単位以上（※社会科学科目4単位以上、人文科学科目2単位以上を含む事）
受講開始基準	① 学習継続条件および進捗チェックに抵触したことがないこと ② 2年終了時の総合成績（累積GPA）が所属学科学年の上位20位以内であること
修了判定基準	① 「地球環境と生態系」の成績がA以上であること ② 「インターンシップⅠ」および「インターンシップⅡ」を修得していること ③ 「自然環境総合演習」において、プレゼンテーションと最終試験に合格し、成績がA以上であること ④ 必修科目、必修選択科目を含み、34単位以上を修得していること